

第1回「遠山郷いい川づくり」推進会議(各新聞記事)

先進事例学びスタート

遠山郷いい川づくり推進会議

飯田市南信濃の住民でつくる「遠山郷いい川づくり」推進会議(委員21人、事務局・県下伊那那建設事務所)は24日夜、南信濃自治振興センターで第1回を開いた。県が予定している南信濃和川の二級河川遠山川の整備計画に呼応し、整備後の河川活用など住民代表として取り組んでいく。当面はゆるやかな組織体として協力を重ね、規約なども今後詰めていく。この日は先進事例を学習し、会議の在り方を考える一環として、

講演は、諏訪湖の再生における住民参加運動を主導した神野外輝夫さんが講師を務め、「人・地域が主体の川づくり」諏訪湖事例から「山・川」の題で行った。山地荒廃による土砂流入や高度経済成長期

意欲は大きかったとい、湖沼と河川では性質の違いがあるものの住民参加の観点で参事になる点はあるだろうとした。

同推進会議は、整備計画策定に当たってきつた住民を中心にまちづくり委員会や小中学校、保育園、商工会議所、振興公社、若者プロジェクト会議などのメンバーで構成する。田代幸雄那建設事務所長は「この地域では特に川づくりがまちづくりに直結する。生



「遠山郷いい川づくり」推進会議の第1回

飯田市南信濃の遠山川整備 地元推進会議が発足

「ごみ拾いや草刈り計画」

飯田市南信濃和地区を流れる遠山川について、県下伊那那建設事務所(天龍村)が地元住民との協働で策定した河川整備計画を推進する「遠山郷いい川づくり」推進会議の初会合が24日夜、市南信濃自治振興センターで開かれた。整備計画の目標に

「人・自然・文化のハーモニー」を掲げ、この実現に向けた具体的な取り組みを検討し、実施していく。

同会議は、地元の各種団体の代表者ら21人で構成。本年度の活動として、遠山川整備の工事現場を見学するほか、遠山川での「ごみ拾いや草刈り」を予定している。

この日は、信州大名教授の沖野外輝夫さん(76)が「陸水学」が「人・地域が主体の川づくり」諏訪湖事例からの提言」と題して講演。住民参画を進めている諏訪湖再生事業を紹介しながら「生物との共存を考へることが大切」とした上で、行政と住民、専門家の連携が重要と話した。

初会合であいさつした同事務所の田代幸雄所長は「(同会議を通じて)一緒に川づくりをしていきたい」と述べた。

飯田市南信濃地区を流れる遠山川の整備をめぐり、県下伊那那建設事務所(田代幸雄所長)と住民が協働する「遠山郷いい川づくり推進会議」が24日に発足した。河川整備について考えた前身組織に教育関係者を加えて常設化。人・自然・文化のハーモニーを奏でつづける遠山川の実現に向け、多様な活動展開を想定している。

本年度に着手した河床回復工事のあり方をめぐって意見交換した「遠山郷いい川づくり会議」を軸に、「ハードとソフトの両面で持続性のある取り組みをしていきたい」と

常設化で住民と協働

下伊那那 遠山川づくり推進会議発足

重なるサイクルで、目標を掲げ、この実現に向けた具体的な取り組みを検討し、実施していく。

同会議は、地元の各種団体の代表者ら21人で構成。本年度の活動として、遠山川整備の工事現場を見学するほか、遠山川での「ごみ拾いや草刈り」を予定している。

この日は、信州大名教授の沖野外輝夫さん(76)が「陸水学」が「人・地域が主体の川づくり」諏訪湖事例からの提言」と題して講演。住民参画を進めている諏訪湖再生事業を紹介しながら「生物との共存を考へることが大切」とした上で、行政と住民、専門家の連携が重要と話した。

初会合であいさつした同事務所の田代幸雄所長は「(同会議を通じて)一緒に川づくりをしていきたい」と述べた。

「遠山郷いい川づくり」推進会議の初会合に集まった住民ら

「遠山郷いい川づくり」推進会議の初会合に集まった住民ら

性を得られる改善を求める声が出ている。同所は河床回復や親水性のある高水敷の回復を目指し、今年度からの5カ年計画で工事を展開。総工費1億5000万円を想定し、段階的に実施する。



発足した推進会議